竹取新聞

発行所
株式会社 カグヤ

第171版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようよろしくお願いいたします。

守りの肝

前回は採用についての「攻め」をご紹介させていただきましたが、今月号では多くの園さんに見られた「守り」の特徴についてご紹介します。

前号の「攻め」についての記事では、自園のSNSとHPをしっかりと導線設計し運用することで理念にあった主体的な職員を採用できる体制を作りました。そしてそれによって、組織は採用された職員が働きがいを持って過ごす姿の影響で「イキイキと楽しい園の雰囲気」を醸成しはじめていきます。また、「紹介会社に支払う費用が不要になる」ことによって、不要になった予算をどこに使うかの自由が生まれます。

今回の「守り」の肝は、「攻め」に成功した園がそれを何に使うか、ということにあるように感じました。それらの園の特徴に職員の手当や賞与に充てるなど、職員が安心して働ける予算組みが前提にありました。その上で、職員が行きたい研修に行けるような、やりがいを育む予算組みも大切にされていました。

このような「主体性」と「安心」を保障する組織の下地が整うと、組織全体が活性化して様々な助け合いや育ち合いなどの良い文化が生まれていきます。これは「子どもの主体性」や「子ども同士の学び合い」の場を育むコツである「興味関心（発達）に合った場」「自ら選択できる場」「大事にされていると本人が感じられる場（安心基地）」が大人でも同じく重要であることを示しているように感じます。

そして、今回の様々な取材の中で共通するのは「園が大事だからこそ今は建物よりも職員を大切にする」という判断や「理念で職員の働きがいを守る」という決断、そして「職員のお陰で園がある」という謙虚な姿でした。

子どもに教えるのが先生の仕事ではなく、子どもから学ぶのが先生の仕事とお聞きしたことがありましたが、経営もまた同じことなのかもしれません。皆様からいただいたこの大切な教えを社業に活かしていきたいと思います。

（眞田 海）

子ども主体

保育環境研究所ギビングツリー主催、見守る保育　藤森メソッド®第57回保育環境セミナーを開催しました。今回は、見守る保育　藤森メソッドの3つ目の実践ポイント「子ども主体」をテーマに、藤森代表の講演が行われました。「子ども主体」の具体例として、「選択」「参画」「自由遊びの保障」を挙げられ、動画や写真など事例を交えて、講演が行われました。その他、園見学や実践発表、Q&Aのプログラムを実施しました。

セミナー後のアンケートでは、「ある程度成長して選択することを取り入れるのではなく、0歳から選択をしていくことが大事だと思いました。選択肢がなかった場合は、その中から選択させるのではなく、第3の選択肢を与えることも大事だと感じました。」や、園見学の感想では、「保育者の方に質問でき考えや課題をシェアでき、ただ見学するよりも倍以上に得られるものがありました。」など、他にも、子ども主体の理解が深まったとの感想が数多く寄せられました。

オンライン参加ご希望の方はギビングツリーのホームページからお申込いただけます。

また、実践発表園の一園、千代田せいが保育園様では、会場で実践発表をしている先生方の様子を、オンラインで数名の園児たちが視聴していたそうで、ハイブリット開催ならではのエピソードをお聞きすることができました。

11月には、藤森メソッドの実践ポイントの4つ目である「チーム保育」をテーマにセミナーを開催いたします。オンライン申込につきましては現在も受付中ですので、参加ご希望の方はぜひお申込ください。

（奥山 卓矢）

銀杏で繋がる

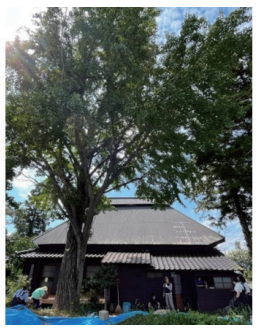
福岡の藁ぶき古民家『和樂（わら）』には、大きな銀杏の木があり、今年もたくさんの実がなりました。翡翠色の銀杏はとてもおいしいのですが、毎年拾うのや下処理にひと苦労ということで、今年は木の周りにブルーシートを敷いてみたところ、落ちた実が草や土、砂利などと混ざらず拾いやすくなりました。

ここでの暮らしも銀杏の木との付き合いも3年目に。1年目は屋根に落ちてきた音に「何事?! 動物?」と恐怖感をおぼえたり、大量すぎる実の数やそのにおい、それによるコバエの大量発生など驚きの連続でしたが、年々、見通しが立ってきてそれなりに準備もできるようになり、銀杏との付き合い方も上手になってきているのを感じます。

更に、ひとりでは拾うのも下処理も食べきることも難しく大変と感じてしまいます。しかし、近隣の方々や家族親族、仲間や友人などたくさんのご縁ある方々と一緒に取り組んだり、お福分けしたりと、色々な人と繋がれることで、とても豊かなものになることも感じています。ひとりでは大変でも一緒だと豊かというのは、仕事にも子育てにも共通しそうな話ですね。銀杏の存在を通して、先人が大切にしてきた相互扶助を身をもって学ばせて頂いています。

そもそも人は支え合って生きています。他者に助けを提供するのは得意でも、助けを求めるのは苦手な人も多いもの。大変な時こそ「自分ひとりで何とかしないと」とならないよう、「お互いさま、おかげさま」で人を頼り助け合う力が育める環境や、助け合いを経験できる場など、改めて大事にできたらと感じています。

（宮前 奈々子）

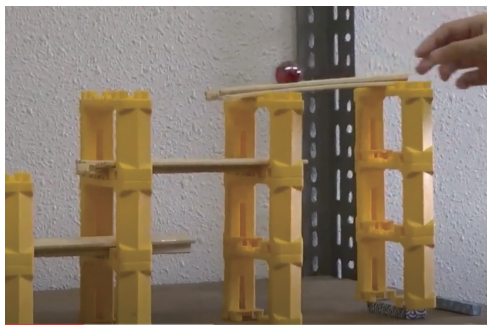

私が住むずっと前から長年ここに存在する銀杏の木。
これまでどれだけの方々に恵みを与えられたのでしょうか。

カグヤクルーブログも毎日元気に配信中！
カグヤウェブサイト
www.caguya.co.jp
「聴福庵」の情報はFacebookで
神家総本家 聴福庵

CCN CAGUYA COMPANY NEWS カグヤニュース

カグヤでは、それぞれが別々の場所にいても、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介いたします。

「好き」の探求


ワクワクが詰まったピタゴラ装置。これぞ探求と創造の原点！

先日、娘の中学校の文化祭へ行った時のことです。様々な展示や出し物がある中で「科学探求部 物理班」の展示に目が留まりました。「物理」と名の付く通り、ピタゴラ装置やロボット制作から始まり、最近ではプログラミングを使ってウェブ・ゲーム制作などにも力を入れているようで、「好き」を追求する活動紹介動画に思わず釘付けになりました。

これからの時代、様々な職種がAIに取って代わられると言われていますが、物理班の活動のテーマは「AIになくて人間にあるもの、想像力と創造力」。AIやテクノロジーの進歩は素晴らしいですが、それを活用し、新しいものを創り出すのは人間なのだということを意識して活動しているようです。

また、パソコンを相手に一人で取り組むのではなく、新しいことは先輩や仲間が教えるようにしているそうで、人と人とが話し合い創り上げていく環境は技術が進んでも変わらないということも面白いと感じました。

どんな部活も好きなことをとことん追求する熱量に変わりはなく、そんな子どもの「好き」に最大限に応えられるようサポートすることが、私たち大人の楽しみでもあると再認識させてもらいました。（眞田 由莉）

新サービス構築中

現在社内では、ホームページに限らずウェブを活用した新サービス提供に向けての打ち合わせを重ねています。新サービスでは、今すでにある園のHPやSNSなどのウェブツールの導線を見直し、整え、広報から応募までをトータルでサポートするプランを構築中です。

保育で例えると、園内にはブロックや絵本、おままごとなどのコーナーがあるかと思います。そういった物的環境はあるものの、子どもたちが遊び込めていない！ そんな時は、置く場所や置く物、動線を見直すことで、魅力が伝わり、遊びが発展していくのではないでしょうか？

それと同様にHPやSNSなど、お持ちのウェブツールのそれぞれの役割を理解し、導線を整えることで、園を探す保護者や求職者の方の目に留まりやすくなります。昨今、採用のお悩みも多く寄せられ、同封のフライヤーは導線を見直す一つのご提案です。園の魅力がより伝わるよう、新プランを構築中ですので、改めてお知らせします。（奥山 卓矢）

先月号にフライヤーを同封しています。
新プランにもご期待ください！

一期一会庵

保育の場をととのえる

先月、福岡と千葉のむかしの田んぼで稲刈りがありました。すでに無肥料無農薬で十数年近くお米づくりをしていますが、今年も無事にたくさん収穫ができました。自然と共に育つ先人の知恵を子どもたちに伝承しようと、私たちも稲と共に育ち一年をめぐるのですが、この時期の農の充実感は格別です。

実際に無肥料無農薬というのは本当に大変です。お米が育つように見守るのも一苦労です。例えば、似たような植物から居場所を奪われる、蔓系の植物に巻き付かれる、お米を食べる虫たちが群がってくる、太陽の光を木々や植物に占有される、雀などの鳥や動物たちから食べられ荒らされる、他には水害や台風、日照りの乾燥など、困難や試練はきりがないほどです。

これだけの困難がありながらいのちいっぱいに自立して実を結んでくれ、元氣に育ったお米を観るとしみじみと感謝が湧きます。まるで一年に一つの人生に寄り添うような感慨深さです。保育に通じるものを感じています。

もともと私たちの身体は食べているものでできています。細胞一つ一つはこの食べたもののいのちが移動しながら宿り、代謝をしては活動を続けます。食べ物といっても物ではなく、それぞれのいのちの物語があります。どのように育ってきたか、どのような思い出があったか、どのような生き方をしてきたか、それは生き物によってそれぞれに異なります。

つい一般的な農業のイメージから、お米づくりは大量に一斉に育て収穫し、見た目をよくしたり糖度や効率性などに意識がいきます。しかし、本来はお米の幸福を考えたなら、そのお米らしく育つように見守り、そして育ち方や逞しさ、元氣さや種の幸福さなどに意識を向けていきたいと思うものです。

するとそこには農業ではなく、農文化、あるいは農の道という伝統と伝承がそこに宿っていることに気づきます。これはまさに保育の道も同じではないかと私たちはいつも実感しています。

私たちは子どもを見守る先生たちを支える仕事だからこそ、お米づくりによってその生き方や姿勢を学び直していこうと精進しています。

お米から学んだ知恵や生き方＝働き方が、皆様のお役に立てるようにカグヤはこれからも保育環境の一部としての「保育の場」をととのえていきたいと思います。（野見山 広明）

編集後記

秋の夜長をゆっくり過ごし
夏の疲れにさようなら！

あんなに暑かった夏は過ぎ去り、あっという間に秋を迎えましたね。

せっかく過ごしやすくなったのに、体の不調を感じる方もいらっしゃるのではないでしょうか。どうやら夏の疲れが回復しないまま秋になり、朝晩の気温差が大きくなることで体調を崩す方が増えるようです。今年の異常な暑さに例年以上に疲れが溜まっているのかもしれません。

夏の感覚を引きずってしまいがちですが、衣服や食べる物を秋に移行し、秋ならではの行事を楽しみたいものですね。（眞田 由莉）

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます

caguya 株式会社 カグヤ

ライトハウス（灯台）
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.050-1744-8823
fax.03-3518-6218

カグヤウェブセンター
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.03-3518-6217
fax.03-3518-6218

働き方と暮らし方の一致
暮らしフルネスについて